

教育委員会協議会議題

平成20年7月29日

1 報告事項

(1) 片浦中学校のあり方について(資料1 教育政策課)

(2) 小田原市社会教育委員会議からの提言書の提出について

(資料2 生涯学習政策課)

片浦中学校のあり方について

1 経緯

私立中学校や通学区域の弾力化により他の公立中学校へ進学するお子さんが増え、平成20年度に片浦中学校に入学する子どもの人数が非常に少ない見込みであることがわかり、昨年の秋以降、片浦地区の子どもたちにとって、最も望ましい中学校のあり方について、学校関係者、地域関係者、教育委員会で協議して検討を進めてきました。

本年1月には、小田原市立片浦中学校のあり方を考える委員会を発足させ、議論を重ねるとともに、片浦地区4会場での住民説明会や保護者アンケート調査等を実施してきました。

2 検討に当たっての教育委員会の基本方針

子どもの幸せを第一に考える。

地域の意見を最大限に尊重する。

3 経過

・平成19年9月下旬

片浦中学校から来年度片浦中学校へ入学する予定の子どもが非常に少なくなる見込みである旨の連絡を受ける。(10名中2名)

・平成19年10月

教育委員会内で現状の把握・教育委員会の基本方針の決定、今後の進め方等について検討・調整を行った。

・平成19年11月7日(水)

片浦地区学校関係代表者と現状説明及び意見交換会

〔出席者：片浦学区新しい学校づくり推進委員会委員・小中学校PTA関係者・小中学校教諭〕

・平成19年11月30日(金)

片浦小中学校保護者等への説明会

〔出席者：小中学校在学保護者・片浦学区新しい学校づくり推進委員会委員・小中学校教諭〕

・平成19年12月20日(木)

今後の片浦中学校問題の進め方について意見交換会

〔出席者：片浦学区新しい学校づくり推進委員会委員〕

○検討委員会の設置について

○地域へのお知らせと保護者の意識調査の実施について

○片浦中学校のあり方について(条件整理)

・平成20年1月17日(木)

第1回小田原市立片浦中学校のあり方を考える委員会

○地域住民説明会の開催について

○保護者への意識調査の実施について

○今後の検討スケジュールについて

○各選択肢の検討(メリット・デメリット等)

- ・平成 20 年 2 月 19 日～3 月 6 日
片浦地区住民説明会の開催
(2/19・石橋地区、2/26・米神地区、2/28・根府川地区、3/6・江之浦地区で開催)
- ・平成 20 年 2 月 6 日～2 月 18 日
片浦小中学校児童・生徒の保護者宛アンケート調査
- ・平成 20 年 2 月 6 日～2 月 18 日
片浦中学校生徒あて意見（気持ち）調査
- ・平成 20 年 3 月 19 日（水）
第 2 回小田原市立片浦中学校のあり方を考える委員会
○片浦地区 4 会場住民説明会の結果報告
○保護者あてアンケート調査の結果報告
○片浦中学校生徒の意見・要望の結果報告
○アンケート結果の周知について
- ・平成 20 年 4 月 7 日（月）
片浦小学校 6 年生保護者との意見交換会
- ・平成 20 年 4 月 7 日～4 月 16 日
片浦小学校 6 年生の保護者あてアンケート調査
- ・平成 20 年 4 月 28 日（月）
第 3 回小田原市立片浦中学校のあり方を考える委員会
- ・平成 20 年 5 月 20 日（火）
片浦中学校のあり方について話し合う会（片浦中学校 P T A）
- ・平成 20 年 5 月
片浦小学校 P T A によるアンケート調査
- ・平成 20 年 6 月 3 日（火）
第 4 回小田原市立片浦中学校のあり方を考える委員会
○今後の方向性に対する各団体等の意見
- ・平成 20 年 7 月 2 日（水）
第 5 回小田原市立片浦中学校のあり方を考える委員会
○加藤市長との意見交換
- ・平成 20 年 7 月 11 日（金）
片浦小学校 P T A 懇談会
- ・平成 20 年 7 月 18 日（金）
片浦中学校のあり方について話し合う会（片浦中学校 P T A）

4 学校の適正規模

学校の規模に関しては、学校教育法施行規則で標準的な学級数を定めており、小学校 12～18 学級（1 学年 2～3 学級）、中学校 12～18 学級（1 学年 4～6 学級）と規定されています。（特別支援学級の学級数を除く）

現実の地域的な条件や学校施設の規模等の状況を考慮する必要がありますが、国の規定をもとに、平成 19 年度の中学校の普通学級の学級数をもとに、小規模校（11 学級以下）、標準規模校（12～18 学級）、大規模校（19 学級以上）とに分類してみると、標準規模の中

学校は、白山(17)・鴨宮(17)・千代(15)・城北(14)の4校です。また、学級数の多い大規模校は、酒匂(19)・泉(19)の2校です。そして、学級数の少ない小規模校は、城山(9)、白鷗(11)、城南(6)、国府津(9)、片浦(3)、橘(9)の6校です。

5 小規模な学校の問題点

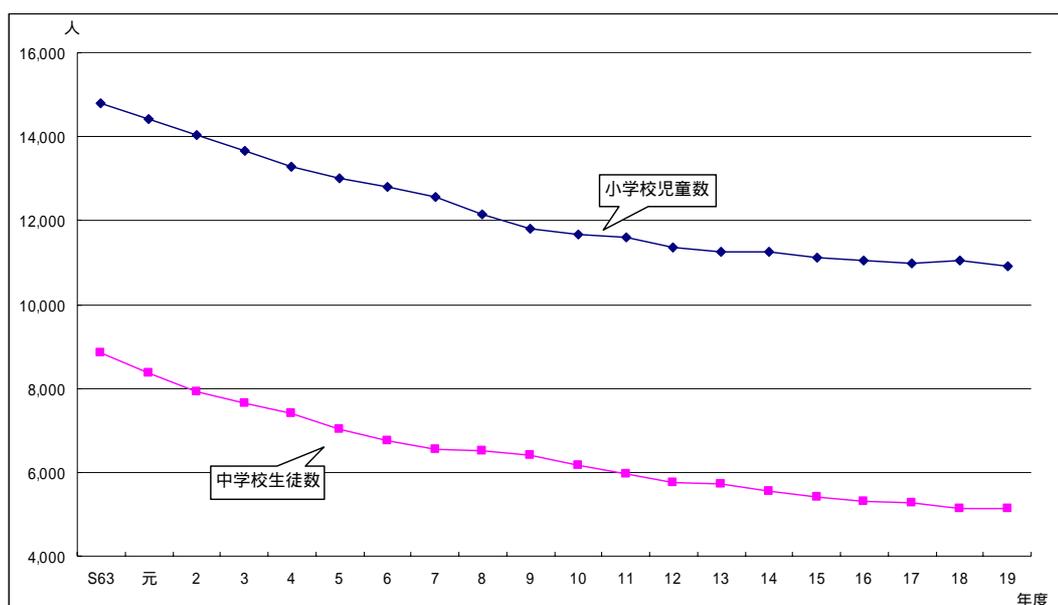
小規模な学校の場合、学習指導面において児童・生徒一人ひとりに教員の目が行き届きやすく、個性と能力に応じたきめ細やかな学習指導がしやすいなどの利点があります。

反面、以下のような課題が指摘されており、生徒数が著しく少ない場合には、学校教育への影響も大きくなります。

- ・ クラス替えがないことにより、子ども同士、保護者同士の関わりが固定化されがちになります。また、人間関係上の問題等が生じた場合には問題解消が難しい場合があります。
- ・ 多角的な物の見方、考え方を学んだり、多様な人間関係を築くことが難しくなります。
- ・ 集団規模が小さいと、体育での集団ゲームやダンス、音楽での合唱、合奏等、学習そのものが成立しない場合があります。また、競いあう機会が少なくなり、運動会での集団競技、遠足等での集団活動の活性化が欠けることがあります。
- ・ クラブ活動や部活動などの数が限定され、児童生徒の多様な希望に応えることが難しくなります。
- ・ 教員配置数が少なくなるため、各教科に応じた職員をバランス良く配置することや習熟度別学習などの対応した指導体制を組むことに支障が生じます。また、過度に小規模の場合、複式学級や教科担任を専任で配置できない教科が発生します。

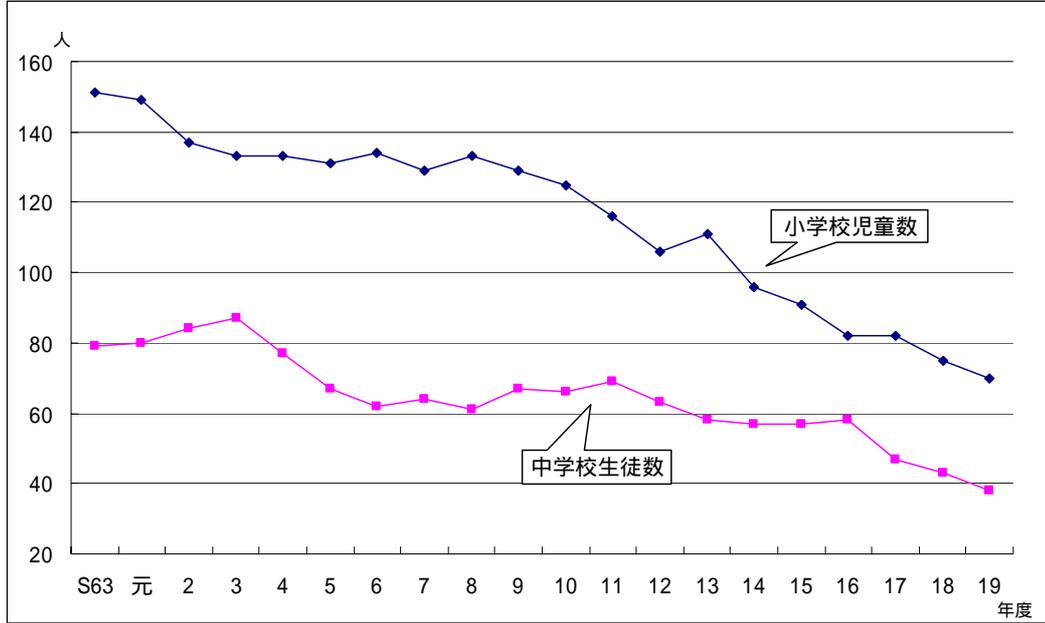
6 小田原市の人口と児童・生徒数の推移

全国的に少子化が進んでいますが、小田原市立の小学校と中学校の児童生徒数も、出生率の低下等により年々減少しています。平成19年では、小学生はピーク時(S56年)の60%、中学生はピーク時(S61年)の56%になっています。



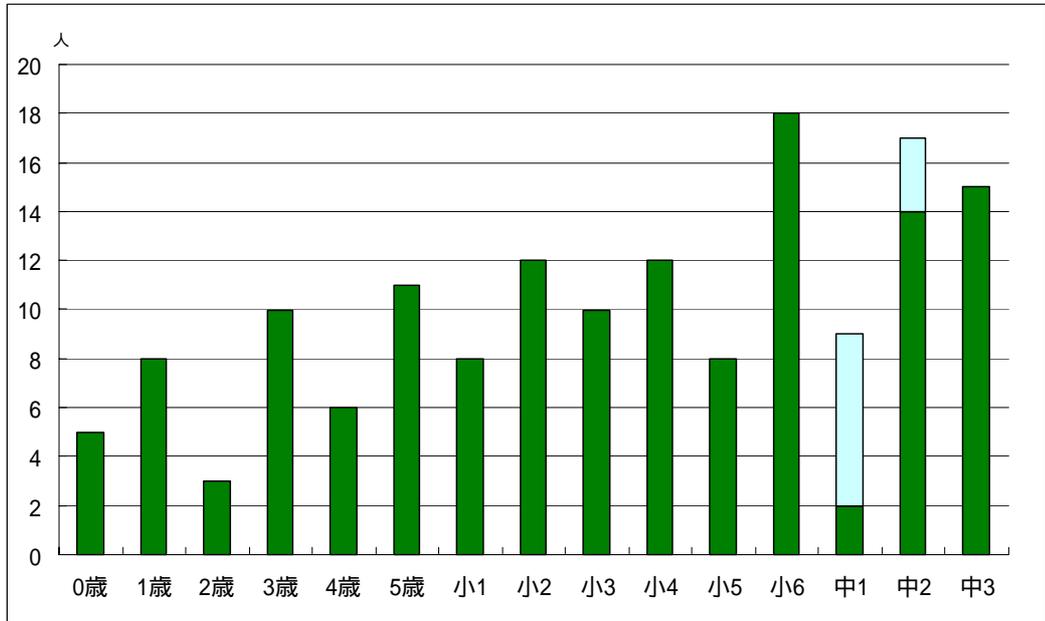
7 片浦地区の児童・生徒数の推移

片浦地区は、全域が調整区域という事情もあり、小田原市内でも少子高齢化による人口減少が進んでいます。



8 現在の片浦地区の児童・生徒・幼児数

私立中学校や他の公立中学に進学するお子さんが増え、片浦中学校の生徒数が減少しています。また、少子化の進行が著しく、幼児数も減少しています。



0歳 H19.4.2生～H20.4.1生
 1歳 H18.4.2生～H19.4.1生
 5歳 H14.4.2生～H15.4.1生

平成20年4月現在
 0歳～5歳は人口
 小1～6は片浦小児童数
 中1～3は片浦中生徒数

9 今後のスケジュール(案)

